

第1回家庭教育支援指導者等研修 実施レポート

日時：令和6年5月30日（木）10時～15時 参加者：32名（うち市町村等から22名）
会場：秋田県生涯学習センター講堂

「学校・地域との連携で家庭教育を支えよう」というテーマのもと、今年度最初の研修を行いました。家庭教育支援がなぜ必要か、どんな支援が期待されるかなど、基本的なことについて学んだり、つながりで保護者を支えるためにどんな場や機会が必要かについて、グループごとに意見交流したりしました。また、スクールカウンセラーである講師による演習を体験し、感情コントロールの力を育てることの重要性に気付かされる研修となりました。

【午前の部 ①講話 ②協議・演習】

秋田県生涯学習センター社会教育主事の **佐藤 隆道** が「つながりで支える家庭教育」と題して話をしました。インターネットの利用時間が増加したり、コロナ禍で不登校やいじめが増加したりしていることなどをグラフ等を用いて示しながら、不安を抱える保護者に寄り添う必要性が近年さらに増していると説明しました。また、家庭教育支援チームが様々な関係者等と目標やビジョンを共有し、ゆるやかなネットワークを形成して、つながる安心感を保護者に伝えることの大切さを強調しました。

後半の協議・演習では、つながりで保護者を支えるために「どんな場や機会が必要か」についてグループごとに話し合いました。話題の中心は、様々な主体が同じ目標に向かって連携・協働することが大切だという、先の佐藤の講話とつながるものとなりました。また、途中でテーブルワークを入れて他のグループの意見に触れたことで、各自の考えを振り返り、広げることができました。



【午前の部 参加者アンケートより】（抜粋）

- ・家庭教育支援の意味や必要性、現状について、データを基に具体的に理解できました。その後のグループワークも、事前の講話があったので意見交換がしやすく、学ぶことが多かったです。
- ・「つながる安心感」について、ワークショップも含め、講話や様々な職域の方々の考えを聞くことができたので、とても今後の活動の参考になりました。

【午後の部 講話・演習】



大仙・美郷教育支援センター「フレッシュ広場」スクールカウンセラー **菅原 由起子** 氏に、「スクールカウンセラーの役割と家庭教育支援チームとの連携の可能性」と題してお話いただきました。講話のはじめに、スクールカウンセラーと家庭教育支援チームの役割を確認しました。菅原氏は保護者の悩みや不安を和らげるポイントとして、「感情コントロールの力」を挙げました。それは親子の愛着関係をベースに育つこと、子どもは安心・安全に包まれることで落ち着き安心感をもつこと、

幼児期の育ち方が感情コントロールの発達の土台となることなどを話されました。

続いて具体的なケースを想定した2種類の演習を行い、困り感を抱える子どもと保護者への対応について、参加者同士で話し合いました。大切なことは「気持ちをわかってあげる関わり」であると説明され、参加者は大きく領いていました。

最後に、対人援助職の心の健康（3色理論）について話されました。「心の健康は体（神経）から来る」「『緑』（安全・安心を感じる）の時間を徐々に増やすことが大切」「大人も安心・安全に包まれる必要がある」とまとめられ、家庭教育支援チーム員としての気持ちのもち方に大きなヒントを与えてくださいました。

【午後の部 参加者アンケートより】（抜粋）

- ・悩みや不安にどう寄り添えばよいか、とても参考になりました。感情はどうしても表に出てしまうため、気持ちを理解するようにしたいと感じました。感情コントロールの力を育てる手立てがよく分かりました。
- ・自律神経を崩してしまう理由を赤・青・緑で分かりやすく説明していただき、大いに納得し、参考になりました。面談の際の言葉かけや内面の読み取りも勉強になり、今後に生かせそうです。